

■畑作物の除草剤(大豆・小豆)

作物名	使用方法	毒性	薬剤名	成分	使用時期	使用量 10a当り
大豆	全面土壌散布	－	ラ ッ ソ ー 乳 剤	アラクロール 43%	は種後～出芽前	300ml
		－	ラ ク サ ー 乳 剤	アラクロール 30% リニュロン 12%	は種後出芽前 (雑草発生前)	400～600ml
		－	ビ ン サ イ ド 乳 剤	IPC 25% プロメトリン 15%	は種後 (雑草発生前)	330～400ml
		－	フ ル ミ オ WDG	フルミオキサジン 50%	は種後出芽前 (雑草発生前)	5～10g
		－	デュアー ル ゴ ー ル ド	メトラクロールS 83. 7%	は種後出芽前 (雑草発生前)	70～100ml
		－	フィールドスター P 乳 剤	ジメテナミドP 64%	は種後発芽前 (雑草発生前)	75～120ml
	茎葉兼土壌散布 (畦畔・株間)	－	ロ ロ ッ ク ス	リニュロン 50%	播種直後	100～150g
					大豆生育期(本葉5葉期以降) 雑草生育期(草丈15cm以下) 但し収穫30日前まで	100～200g
	雑草茎葉散布 又は 全面土壌散布	－	パワーガイザー 液 剤	イマザモックス アンモニウム塩 0.85%	生育期(雑草発生前～2葉期) 但し、収穫30日前まで	200～300ml
		－	ナ ブ 乳 剤	セトキシジム 20%	大豆の出芽直前～出芽揃 (雑草発生前期～発生揃期) 大豆初生葉展開期～1葉期 (雑草2葉期まで)	150～200ml
		－	セ レ ク ト 乳 剤	クレトジム 24%	一年生イネ科雑草3～5葉期 但し収穫30日前まで	200ml
		－			雑草生育期(イネ科雑草6～8葉期) 但し、収穫30日前まで	35～50ml
小豆	全面土壌散布	－	ビ ン サ イ ド 乳 剤	IPC 25% プロメトリン 15%	は種後	330～400ml
	茎葉兼土壌散布 (畦畔・株間)	－	パワーガイザー 液 剤	イマザモックス アンモニウム塩 0.85%	生育期(雑草発生前～2葉期) 但し、収穫30日前まで	200～300ml
	雑草茎葉散布 又は 全面土壌散布	－	ナ ブ 乳 剤	セトキシジム 20%	イネ科雑草3～5葉期 但し、収穫14日前まで	150～200ml
					イネ科雑草6～8葉期 但し、収穫14日前まで	200ml
		－	セ レ ク ト 乳 剤	クレトジム 24%	雑草生育期(イネ科雑草3～5葉期) 収穫45日前まで	35～50ml

効果の表示 ◎大 ○中 △小 ×劣る(令和6年度くみあい農作物病害虫・雑草防除ガイドより)、●登録有(農薬メーカーHPより、2024年12月3日現在)

使用回数	対象雑草			除草効果及び処理限界							防除上の注意事項
	一年生雑草	一年生イネ科雑草	多年生雑草	スズメノカタビラ	アブラナ科	シロザ科	タデ科	スカシタゴボウ	ハコベ	ツユクサ	
1回	●	◎				△	△	○	△	○	・雑草の発生前に散布すること。 ・整地・覆土を周到に行うこと。 ・土壌が乾いていると効果が劣る。 ・本葉1～2葉の1一部が欠損縮葉することがある。
1回	●	◎				◎	◎	◎	◎	△	・砂土系で透水性の良い圃場や、散布後の降雨は薬害のおそれがあるので使用を避ける。
1回		○				○	◎	△	◎	×	・成長した雑草、多年生雑草又は深根雑草には効果が期待できない。 ・砂質土または水はけの良い土壌では薬害を生じる恐れがあるので使用しない。 ・高温乾燥時期や散布後高温が予想されるような条件下では、薬害または効果不足を生じる恐れがあるので使用を避ける。
1回		△				◎	◎	◎	◎	△	・処理時期が出芽期に近いと生育抑制を生じる場合があるので、処理が遅れないようにする。 ・本剤散布に用いた器具類は、タンクホース内に薬剤が残らないよう、使用後できるだけ早く専用の洗剤でよく洗浄し、他の用途に使用する場合、薬害の原因にならないよう注意する。
1回	●	◎				△ ↓ ×	△	△ ↓ ×	△	○	・砂土系や透水性の良い畑では多量に雨が降り続く時期の散布は薬害の危険があるので使用を避ける。 ・土壌が乾燥していると効果が劣ることがある。 ・水稻に薬害を生じる恐れがあるため使用ほ場での当年または翌年の水稻栽培は避ける。 ・広葉雑草(特にアカザ科)には効果が劣るので、イネ科雑草優占圃場で使用。
1回	●	◎		○		△ ↓ ×	△	△	△	○	・砂土では使用しない。
1回	●	○ ↓ △				◎	◎	◎	◎	△	・雑草の発生初期散布効果大。 ・砂土系で透水性の良い畑や、雨が多量に降り続く時期には薬害の危険があるので使用を避ける。 ・覆土ムラがあると薬害の危険があるので、碎土・整地を丁寧にし、3cm程度に均一に覆土する。 ・飛散防止装置を総茶木氏、作物にかからないように畦間、株間に精度良く散布する。 ・作物に飛散すると付着した部分に薬害を生じる。
1回	●	△				◎	◎	◎	◎	×	・畦間処理は作物にかからないことを前提とした処理方法であり、飛散防止装置を装着し、畦間に精度良く散布することが必要。 ・作物に飛散すると薬害が生じることがある。 ・低薬量では効果が劣ることがある。 ・雑草の生育が進むと除草効果が低下するので、使用時期を逸しないように散布する。 ・有機リン系殺虫剤またはイネ科雑草処理除草剤との10日以内の近接散布は、薬害の恐れがあるので避ける。
1回		◎		×		×	×	×	×	×	・イネ科雑草を完全に故殺するまでに7～10日を要するので、誤ってまき直しなどをしないように注意する。 ・スズメノカタビラには効果がない。
1回		◎				×	×	×	×	×	・スズメノカタビラ優占圃場では50～75ml/10aで単用、または体系処理をする(スズメノカタビラでの登録は3～5葉期まで)。 ・やや遅効性であり、イネ科雑草を完全に故殺するまでに7日前後要するので、誤ってまき直しなどをしないように注意する。
1回						○	◎	△	◎	×	・成長した雑草、多年生雑草又は深根雑草には効果が期待できない。 ・砂質土または水はけの良い土壌では薬害を生じる恐れがあるので使用しない。 ・高温乾燥時期や散布後高温が予想されるような条件下では、薬害または効果不足を生じる恐れがあるので使用を避ける。
1回	●	△				◎	◎	◎	◎	×	・畦間処理は作物にかからないことを前提とした処理方法であり、飛散防止装置を装着し、畦間に精度良く散布することが必要。 ・作物に飛散すると薬害が生じることがある。 ・低薬量では効果が劣ることがある。 ・雑草の生育が進むと除草効果が低下するので、使用時期を逸しないように散布する。 ・有機リン系殺虫剤またはイネ科雑草処理除草剤との10日以内の近接散布は、薬害の恐れがあるので避ける。
2回		◎		×		×	×	×	×	×	・イネ科雑草を完全に故殺するまでに7～10日を要するので、誤ってまき直しなどをしないように注意する。 ・スズメノカタビラには効果がない。
1回		◎		○注		×	×	×	×	×	・スズメノカタビラ優占圃場では50～75ml/10aで単用、または体系処理をする。 ・やや遅効性であり、イネ科雑草を完全に故殺するまでに7日前後要するので、誤ってまき直しなどをしないように注意する。